

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年10月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072500392
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会
事業所名	グループホーム 第二こすもす
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字津390-9 (電話) 0944-86-7238
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年9月5日

## 【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 15 人
職員数	12 人 常勤 10人, 非常勤 2人, 常勤換算 10.4人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(日額)	200 円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 有 (50,000 円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 ( ) 円 <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

### (4) 利用者の概要(平成21年8月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	70 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院、蔵本医院、大川メンタルクリニック、柿添歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本有数の家具の生産地として知られる大川市にあり、周りを木工所に囲まれた2階建てのホームである。特別養護老人ホームを母体とし、行政や地域の要請に応え、平成15年に開設した。地域との交流に力を入れており、ボランティアの訪問も多い。商店街の人達が訪問し、利用者と一緒におはぎや桜餅を作ったり、子育て支援グループによる朗読会が開かれたり、また地域の幼稚園児が2~3ヶ月に1回の割合で訪問し、一緒に塗り絵や折り紙を作ったり利用者の膝の上に乗ったりして、楽しいひと時を過ごしている。クリスマスコンサートに招待された事を機に、ホーム側からの呼びかけで定期的な交流が始まっている。地域の方々にも積極的に参加して頂けるよう運営推進会議を兼ね避難訓練を実施する計画を立てる等、地域に根ざしたホームづくりに取り組んでおり、今後大いに期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、評価結果に基づき職員も参加し、改善策を検討している。入浴については、利用者の希望に応じ柔軟な支援体制の改善に取り組んでいる。職員の異動については、家族への報告の方法を検討しているところである。運営に家族の意見を反映するために、頂いた意見は苦情受付票に記録し、法人役員を含め話し合う仕組みをとっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者と一部の職員が話し合い一つにまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回偶数月に運営推進会議を開催している。行事の予定や、利用者の状況報告、事故報告、困難事例等の検討を行い、サービスの向上に取り組んでいる。次回は、地域の方々にも声かけを行い、運営推進会議を兼ねた避難訓練を計画している。市の担当者には、事業所が抱える問題について相談している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月「グループホーム第二こすもす生ききだより」を、利用者の家族全員に郵送している。行事や暮らしぶりを写真を交えて紹介している。玄関入り口に「福祉サービス苦情解決制度のご案内」を掲示し、苦情受付担当者、解決責任者、第三者委員の名前を記載している。玄関に意見箱を設置し、家族の訪問時に不満や要望がないか、積極的に尋ねるようにしている。頂いた意見は、苦情受付票に記録し、法人役員も含めて話し合う仕組みをとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣組に加入している。会費は免除されていることもあり日頃から空き缶やゴミを拾うなどして、環境美化に利用者と共に取り組んでいる。地域の人々に事業所を訪れて頂けるようケアボックスや料理教室を開催し声かけしている。地域の老人会や夏祭り、小学校の運動会や幼稚園の文化祭など積極的に参加し交流している。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念である「敬愛」を基に、「家庭的な環境と地域住民との交流の元で、利用者が自分らしく生活することができるように支援します。」とグループホーム独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全員で共有するため、1階と2階のホールや事務所に理念と行動指針を掲示している。また大きな字で「安らぎと喜びのある毎日を支援します。」と張り紙をしている。月1回の職員会議で再確認を行い、特に言葉使いに留意するよう、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入している。会費は免除されていることもあり、日頃から空き缶やゴミを拾うなどして、環境美化に利用者と共に取り組んでいる。地域の人々に事業所を訪れて頂けるようケアピクニックや料理教室を開催し、声かけをしている。地域の老人会や夏祭り、小学校の運動会や幼稚園の文化祭など積極的に参加し交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、評価結果に基づき職員も参加して改善策を検討した。入浴については、利用者の希望に応じて柔軟な支援体制の改善に取り組んだ。今回の自己評価は管理者と一部の職員が話し合い一つにまとめた。評価のねらいや活用方法について職員全員が理解するまでには至っていない。	○	管理者は、自己評価と外部評価の意義や活かし方を全職員に説明し、自己評価にあたっては全職員と取り組み、さらに質の向上につなげていくことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、偶数月に運営推進会議を開催している。全員に参加して頂けるよう事前に希望日を伺い日程を調整している。行事の予定や、利用者の状況報告、事故報告、困難事例等の検討を行い、サービスの向上に取り組んでいる。次回は、運営推進会議を兼ねた避難訓練を計画している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での報告以外にも、事業所が抱える問題や認知症の進行と共に集団生活が困難となった利用者について電話や訪問により相談している。また、市の介護相談員を2ヶ月に1回受け入れサービスの向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修に参加し、全職員に伝達研修を行い、制度の理解に取り組んでいる。現在、制度利用者はいないが、必要な時にいつでも関係機関へ橋渡しができるような体制をとっている。また、広報誌で取り上げ、制度の紹介をしたり、来訪者の目に触れるよう玄関にパンフレットを準備したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「グループホーム第二こすもす生き活きだより」を、利用者家族全員に郵送している。行事や暮らしぶりを写真を交えて紹介している。金銭管理は3ヶ月毎に家族に報告している。定期連絡以外にも変化があった時等、こまめに連絡を取っている。職員の異動に関しては、新人紹介はしているが、離職や異動の職員について報告はしていない。	○	利用者の一番身近な存在である職員の異動や離職は、利用者だけでなく、家族への報告も望まれる。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、玄関入り口に「福祉サービス苦情解決制度のご案内」を掲示し、苦情受付担当者、解決責任者、第三者委員の名前を記載している。家族の訪問時に不満や要望がないか積極的に尋ねるようにしている。頂いた意見は、苦情受付票に記録し、法人役員も含めて話し合う仕組みをとっている。		
10	18	110 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には異動は行わないことにしている。やむを得ず異動や離職になった場合は、新しい職員から受ける介護が、出来る限り従来と変わらないようにするため、管理者が新規職員へ情報提供や指導を十分に行い、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	経営母体が、職員の採用を行っている。募集や採用に関しては、性別や年齢等を理由に採用対象から外すようなことはしていない。現在20歳代から60歳代までの職員が働いている。一時期は障害者も採用していた。国家資格合格者には、資格手当をつけたり、互助会から祝いの品を出す等、福利厚生も充実している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修会に参加している。また内部研修を行い、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。日頃から言葉使いに留意し対応するよう指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月会議終了後に内部研修を実施している。研修に参加しなかった職員も資料を配布する等、研修内容を共有する仕組みをとっている。管理者は日々の介護現場で助言する等、職員育成に取り組んでいる。運営者は事業所のサービスの質を良くするためには、職員の質の確保や向上に向けた育成が不可欠であることは理解しているが、職員毎の研修計画までは作成していない。	○	職員の立場や習熟度に応じて段階的に力をつけていけるよう、職員毎の研修計画の作成に取り組まれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会して、勉強会に参加している。また、2年前に、市役所の声かけでグループホームの集まりが始まっている。年に1回集団指導を兼ねて市内の8つの事業所が集まってはいるが、自主的な相互交流までには至っていない。	○	開設以来、地区との交流に取り組み、経験も実績も兼ね備えている貴事業所がリーダーシップをとっての地域ネットワーク作りに取り組まれる事を期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約やサービス開始前に、見学を兼ね行事に参加して、ホームの雰囲気を味わって頂いている。また2～3泊の体験利用を勧める等、本人と家族の不安を出来る限り少なくするよう、馴染みながら利用出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に料理をしながら、下ごしらえや味付け等料理のコツを教えて頂いている。また若い職員の取れかかったボタンを繕ってもらう等出番作りや感謝する場を積極的につくっている。人生の先輩として、利用者から学んだり支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に本人や家族等から希望を伺うようにしている。また入浴や散歩などのリラックスした時間帯に、好みの話題を提供しながら思いや意向の把握に努めている。思いをうまく伝えられない方は、行動や表情から思いや意向を汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当職員を決め、3ヶ月毎に担当者会議を開催している。本人や家族の要望、職員の気づきを基に、計画作成担当者が素案を作成している。素案を基に本人や家族に説明を行い、新たな要望がないか話し合いながら、それぞれの声が反映された介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価を行うと共に、3ヶ月毎に担当者会議を開催し見直しを行っている。心身状態に変化が生じた場合は、本人や家族、医療関係者、職員と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空床を利用したショートステイや医療連携体制、家族の宿泊の受け入れ等、本人や家族の状況や要望に応じた柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関で受診をして頂いている。協力医療機関については、職員が通院介助をしているが、個別のかかりつけ医については家族に依頼している。受診結果については家族と情報を共有し、医療機関と連携を図りながら適切な受診体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応指針を定め、契約時に本人や家族等に説明を行っている。マニュアルを作成し、医療関係者や職員等で方針を共有し受け入れ態勢を整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は、利用者の尊厳を支えるケアの大切さを認識し、日々の介護にあたっている。食事介助の時も、さりげなく声かけされており、自尊心や羞恥心に配慮した対応をしている。記録などの個人情報は、所定の場所に保管し、プライバシーの保護に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間を中心に、おおよその1日の流れはあるが、利用者のその日の体調や気分を尊重した支援を心がけている。食後は、ホールの畳敷きで横になったり、おしゃべりを楽しんだり一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者と相談しながら職員が1週間分を作成しており、利用者の好みの献立が食卓を飾っている。利用者が食材購入に同行する場合もあり、下ごしらえや味付け、盛り付け、食器洗い等を職員と一緒にしている。利用者と職員が食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で声かけ見守りながら同じものを一緒に食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調や意向を確認し入浴支援を行っている。基本的には2日に1回、14時から16時の時間帯で入浴して頂いているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。今のところ朝や夜間帯の入浴希望は出ていない。拒否が強い利用者には、足浴を実施したり、タイミングや声かけに工夫し、気持ちよく入浴して頂くよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、園芸、親睦会や茶話会での御点前、他の利用者や若い職員の衣類のボタン付け等、趣味や特技を活かし、出番づくりや役割づくりに取り組んでいる。本人の誕生日は家族にも声をかけ、一緒に祝いの膳を囲み楽しんで頂けるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて散歩や買い物、ドライブ等に出かけている。月に1度は、利用者と相談しながら行き先を決め、家族も誘ってバスハイクを実施している。帰りは大型ショッピングセンターや100円ショップに立ち寄り、買い物を楽しんだり、おやつを食べたりと楽しんでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階ユニットと玄関は日中鍵をかけていない。2階ユニットの出入り口は、出て直ぐが階段になっており、転落の可能性が高く、利用者の安全確保の観点から内側に鍵をかけている。消防署の指導で手の届く位置に鍵が吊り下げられてあるも、利用者が自由に出入りできる環境ではない。	○	2階ユニットの出入り口に鍵をかけることについては、家族の了解を得ているとはいえ、施錠を常態化せずに他に何か方法はないか、職員や家族、地域の方々とアイデアを出し合い、開錠に向けた段階的な取り組みに期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て昼夜を想定した避難訓練を実施している。全ての職員は、避難経路と避難場所、誘導方法を会得している。地域の方には、日頃から災害時の協力を依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取状況を記録し、把握している。献立は職員が作成し、定期的に同法人の栄養士に専門的なアドバイスを受け、カロリーや栄養の偏りを防いでいる。好みの飲み物や形状で提供している。その日の咀嚼状況に応じ刻む等きめ細かな支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に設置されている手作りの木製フラワースタンドが来訪者を歓迎してくれる。季節の花々を眺めながら日向ぼっこを楽しんだり、居間兼食堂の畳敷きでは、利用者が横になってくつろいでいる。思い思いの場所で安心して過ごせるような空間作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅時に使用されていた、馴染みの家具や夜具等が持ち込まれている。壁には家族の写真や催しの時の写真が飾られている。怪我なく安全に過ごせるようベッドや家具の位置にも配慮し、居心地よく過ごせるよう支援している。</p>		